平成２１年度特定施策推進経費（教育改革等推進経費）

「２１世紀型市民」育成のためのカリキュラム構築に向けて報告書

香川大学大学教育開発センター

Ⅰ．はじめに：「２１世紀型市民」育成のためのカリキュラム構築に向けて

本書は、平成 21 年度香川大学教育改革推進経費の補助を受けて実施した事業研究「『21 世紀型市民』育成のためのカリキュラム構築に向けて」の成果報告書である。この事業研究は、平成 19 年 12 月に答申された中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」を受け、大学教育開発センターが昨年度プロジェクト研究を開始した、同名プロジェクト研究の 2 年度版である。プロジェクトの発足にあたり、「『21 世紀型市民』育成のためのカリキュラムを構築すべく、先行大学の全学共通教育に関する改革状況を調査、分析するとともに、本学の資産を点検、検証し、具体的カリキュラムを析出すること」を目標に掲げ、3 年計画で取り組むこととした。

昨年の事業研究では、教養・共通教育についての改革状況を調査する 100 大学へのアンケート調査を実施するとともに、先行大学の実態を把握するための 8 大学訪問調査を行った。これらの分析を通して、本学のカリキュラム再編においても①教養・共通教育に関する新しい理念、②ディプロマ・ポリシーとの関連づけ、③学生の学習過程への着目、④実効あるカリキュラム遂行のための組織的支援等が必要であるという結論を得た。

これを受け、本年度は具体的で実効あるカリキュラムを導き出すための準備作業として、二つのテーマを掲げて事業研究を実施した。一つは、本学の資産を点検する作業であり、もう一つはカリキュラムを実効たらしめる体制の検討である。点検作業には、基準となる指標が必要であるが、これについては新潟大学で採用している分野・水準表と、中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」で例示された学士力諸項目を参照した。その点検作業手続きについては、後述する。また実効あるカリキュラムの実施体制については、教育コーディネータ制やカリキュラム･マップ、外国語センターを設けている先行大学への訪問調査を行った。

本書は上記今年度事業研究の報告書であり、以下第Ⅱ章では全学共通科目の科目群ごとの点検結果を記す。また第Ⅲ章で訪問調査結果を掲載し、最後に本年度の事業の総括と次年度の課題について触れる。今年度の訪問調査で丁寧に対応して頂いた訪問大学の関係者の方々には、心底から感謝の意を表したい。

Ⅱ．全学共通科目の点検：平成２１年度全学共通科目シラバスからみるカリキュラム点検について

（1）点検作業の手続き

今回のカリキュラム・授業点検に当たって重視したのは、「21 世紀型市民育成」という観点である。前述の中教審答申には、その参考指針が例示されている。そこでは、各専攻分野を通じて培う「学士力」として、知識・理解に関するもの、汎用的技能に関するもの、態度・志向性に関するもの、総合的な学習経験と創造力に関するものに分類される計 13 項目が上げられる。今回の点検では、このうち「人類の文化、社会、自然に関する知識の理解」という項目を、その広範さから文化知識理解、社会知識理解、自然知識理解の３つに分割した。また、地方国立大学という本学の特性を考え、これらに地域理解を加えた計 １６項目を指標とすることとした。これら 16 項目（以下学士力項目と呼ぶ）は以下のものである。

１．多文化・異文化に関する知識の理解（多文化・異文化知識理解）
２．人類の文化に関する知識の理解(文化知識理解)
３．社会に関する知識の理解（社会知識理解）
４．自然に関する知識の理解（自然知識理解）
５．コミュニケーション・スキル
６．数量的スキル
７．情報リテラシー
８．論理的思考力
９．問題解決力
１０．自己管理力
１１．チームワーク、リーダーシップ
１２．倫理観
１３．市民としての社会的責任
１４．生涯学習力
１５．統合的な学習経験と創造的思考力
１６．地域に関する知識の理解

これらとともに、新潟大学が採用している分野・水準表を参考にして、各授業科目担当者の専門分野と授業内容の学問的水準を記載したカリキュラム点検表を作成し、科目群ごとに全授業科目を点検した。専門分野や水準を含めたのは、全学共通科目としての適切さの点検を考慮したことによる。

なお、点検に当たっては「全学共通科目シラバス」を資料とした。この共通シラバスには、授業の概要、授業の目的・達成基準、授業及び学習の方法が記載されており、これらの内容からコーダーが上記学士力項目、水準を判定し、全学共通科目の全授業科目をカリキュラム点検表に書き込むという方法をとった。その際、授業科目群ごとに複数のコーダーが相談し、共通性の高いものを記録した。このカリキュラム点検表の全容は、巻末に掲載している。

本章では、以下で主題科目、共通科目、教養ゼミ科目、高学年教養科目、外国語科目（英語科目・初習外国語科目）、健康･スポーツ科目の各科目群における点検結果が報告されるが、この際の点検評価について考慮したのは次の観点である。まず、各科目群の既存の教育目標との関連性である。学士力項目とは別個に、既存の教育目標は立てられてきた。したがって、既存の教育目標を学士力という指標から、再考する必要がある。つぎに、「学士力」項目のバランスの取れた履修という観点である。学士力という観点から見て、全科目群を通してのバランスの取れた履修ができているか、足りないものはどういう項目かを認識しておかねばならない。最後は授業水準の順次性という観点である。初年次からはじまる全学共通科目の性質を考慮すれば、授業水準の順次性が保証されねばなるまい。これらの点検評価を通して、本学の資産の一つである全学共通教育科目の維持・発展すべき分野、改革すべき分野も明らかになろう。

（２）主題科目の内容点検

１．主題科目における学士力項目の頻度

平成 21 年度において、全学共通科目「主題科目」は、７主題 60 科目が開講されている（前期 34、後期 26)。

表１－１は、それぞれの授業科目のシラバスの内容から想定される学士力の項目を点検し、１科目につき最大３つまで掲げて、番号順に整理したものである。

表１－１　主題科目に見る学士力

学士力番号	項目１	項目２	項目３	計	学士力
０１	10	0	0	10	多文化・異文化知識理解
０２	12	6	1	19	文化知識理解
０３	14	13	5	32	社会知識理解
０４	9	7	1	17	自然知識理解
０５	9	4	2	15	コミュニケーション・スキル
０６	0	2	0	2	数量的スキル
０７	2	1	0	3	論理的思考力
０８	0	8	2	10	情報リテラシー
０９	1	2	2	5	倫理観
１０	1	3	1	5	市民としての社会的責任
１１	2	8	3	13	生涯学習力
１２	0	3	5	8	問題解決力
１３	0	1	8	9	自己管理力
１４	0	1	4	5	チームワーク・リーダーシップ
１５	0	0	0	0	統合的学習経験と創造的思考力
１６	0	0	9	9	地域理解
計	60	59	43	162	

表１－１から、学士力の上位５項目と下位５項目を示せば、以下のとおりである。パーセンテージは総計 162 に対するものである。

上位５項目

社会知識理解 32（19.7%）文化知識理解 19（11.7%）自然知識理解 17（10.4%）コミュニケーション・スキル 15（9.2%）生涯学習力 13（8.0%）

下位５項目

統合的学習経験･創造的思考力 0 (0%) 数量的スキル２ (1.2%) 論理的思考力３ (1.8%) 倫理観５（3.0%）市民としての社会的責任５（3.0%）チームワーク・リーダーシップ５（3.0%）

表１－２は、同様な方法により、学士力項目を１～７の主題ごとに整理したものである。

表１－２　主題ごとに見る学士力

主題	科目数	学士力番号																
		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	計
Ⅰ	9	0	1	3	5	3	0	1	3	4	0	0	0	2	0	0	1	23
Ⅱ	8	1	4	4	3	3	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	20
Ⅲ	8	1	1	5	2	0	0	2	6	0	0	1	1	1	0	0	1	21
Ⅳ	8	3	5	8	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	22
Ⅴ	8	5	4	7	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3	23
Ⅵ	9	0	3	4	6	1	1	0	0	0	2	1	1	0	2	0	2	23
Ⅶ	10	0	1	1	0	6	0	0	0	1	1	7	5	5	2	0	1	30
計	60	10	19	32	17	15	2	3	10	5	5	13	8	9	5	0	9	162

各主題ごとに、上位３項目を掲げれば、以下のとおりである。パーセンテージは、それぞれの主題の計に対するものである。

主題Ⅰ「人間と生命」　コミュニケーション・スキル５（21.7%）倫理観４（17.3%）社会知識理解３（13.0%）コミュニケーション・スキル３（13.0%）情報リテラシー３（13.0%）

主題Ⅱ「人間と文化」　文化知識理解４（20.0%）社会知識理解４（20.0%）生涯学習力４（20.0%）自然知識理解３（15.0%）コミュニケーション・スキル３（15.0%）

主題Ⅲ「テクネーと社会」　情報リテラシー６（28.5%）社会知識理解５（23.8%）自然知識理解２（9.5%）論理的思考力２（9.5%）

主題Ⅳ「歴史と現代」　社会知識理解８（36.3%）文化知識理解５（22.7%）多文化・異文化知識理解３（13.6%）

主題Ⅴ「国際・地球」　社会知識理解７（30.44%）多文化・異文化知識理解５（21.7%）文化知識理解４（17.3%）

主題Ⅵ「環境・生活」　自然知識理解６（26.0&）社会知識理解４（17.3%）文化知識理解３（13.0%）

主題Ⅶ　特別主題　生涯学習力７（23.3%）コミュニケーション・スキル６（20.0%）問題解決力５（16.6%）自己管理力５（16.6%）

２．調査結果の分析

まず、調査結果と「主題科目」の理念との整合性を確認する。共通教育担当教員全員に配布されている『全学共通科目教員ハンドブック』(2009 年度版）より、「主題科目」の理念を示す。

主題科目－現代の諸テーマを学際的に考察し知の総合化をめざす

主題科目では、現代社会が直面する諸問題について６つの主題（テーマ）を設定し、それぞれの主題ごとに８～９講義を開講しています。（中略）主題科目の特徴は「学際性と総合化」にあります。当該テーマを探求する多様な学問的アプローチにふれるなかで、それらを関連づけ総合する視点を受講生にもたせることを目的としています。なお、６主題に加えて、香川大学生として特に考えてもらいたいテーマを「特別主題」として開講しています。

上記のように、「主題科目」の主眼は、現代社会が直面する諸問題を取り扱うことにおかれており、その特徴は、各主題ごとの講義の「学際性と総合化」にある。

主眼点について確認する。表１－１の全体について見ると、学士力の第１位（19.7%）を「社会知識理解」項目が占めていることが注目される。それは、表１－２においてもうかがうことができる。７つの主題のうち、様々な授業からなるという特殊性を持つ「特別主題」をのぞくと、６主題のすべてにおいて、「社会知識理解」項目が１～３位（36.3%～13.0%）を占めている。現代社会のもつ諸問題をテーマとするという理念が確認できる。

特徴点について確認する。こちらについては、表１－２が主な検討材料となる。

表１－２からは、いくつかの主題をのぞき、各主題が、「多文化・異文化知識理解」「文化知識理解」「社会知識理解」「自然知識理解」を中心に複数の項目に渡って授業が組み立てられていることがわかる。これらの項目は、2008 年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において提示されている学士力項目のうち、「知識・理解」グループに属するものである。

例外的な存在は、同じく「汎用的技能」グループに属する「コミュニケーション・スキル」と「態度・志向性」グループに属する「生涯学習力」「問題解決力」「自己管理力」に重きを置く「特別主題」と、「汎用的技能」グループに属する「数量的スキル」にピークがある主題Ⅲ「人間とテクネー」である。いずれもそれぞれの特性がよく現れている。

以上に見るように、各主題科目は、「学際性と総合化」をめざす配慮がなされていると認められる。

次に、調査結果に見られる問題点について検討する。これまでの検討は、もっぱら頻度の高い学士力項目を中心に行ったわけであり、逆に頻度の低い項目の存在についても言及する必要があろう。

１．主題科目における学士力項目の頻度において指摘したとおり、「統合的学習経験と創造的思考力」項目については、まったくシラバスから読み取ることができなかった。1～２

年次を主な履修期間とする全学共通科目の一つの限界であろう。下位を占める「数量的スキル」(1.2%)、「論理的思考力」(1.8%)、「倫理観」(3.0%)、「市民としての社会的責任」(3.0%)、「チームワーク・リーダーシップ」(3.0%) の５項目のうち、「数量的スキル」、「論理的思考力」、「チームワーク・リーダーシップ」については、共通科目・教養ゼミナール・健康・スポーツ科目において頻度が高いので、全体としてみれば充足されている。問題は、「倫理観」と「市民としての社会的責任」の２項目については、全学共通科目全体で頻度が低い点である。

３．今後の課題

今後の課題として３点を指摘しておく。

『全学共通科目教員ハンドブック』では、「主題科目」の授業の計画と実施にあたって、担当者に対し次の３点に留意するようとくに求めている。

①授業内容が当該主題の主旨や意義に合致しているか。

②おもに１，２年生を対象とした内容。難易度であるか。

③主題科目のめざす総合化への配慮（同一主題内の科目間の関連・連携）

これらの観点は、「主題科目」のめざすところを達成するために欠くことのできないものである。今回の点検では、シラバス上で、十分な配慮がなされていない記述がままみられた。

また、学士力の各項目をカリキュラム改革に反映させるのであれば、シラバスにおいても学士力項目に応じた記述が必要となろう。

いくつかの学士力項目について、主題科目のみならず全学共通科目全体を通じて頻度の低いものが見受けられた。これらの項目についての対応が必要となる。

（３）共通科目の内容点検

１．共通科目における学士力項目の頻度

2009（平成 21）年度に開講された 70 科目におよぶ共通科目について、そのシラバスを学士力項目にもとづいて点検した結果は以下に示すおとりである。

まず、頻度の高い項目を挙げた結果が表２－１である。

表２－１　共通科目における頻度の高い学士力項目

学士力項目	該当科目数（%）
自然知識理解	40（57%）
数量的スキル	36（51%）
問題解決力	29（41%）
論理的思考力	24（34%）
社会知識理解	24（34%）

共通科目の中で、頻度の高い項目として挙げられた第１位は「自然知識理解」である。すべての共通科目のうち、40 科目（57%）で確認された。第２位は「数量的スキル」である。すべての共通科目のうち、36 科目（51%）で確認された。第３位は「問題解決力」である。すべての共通科目のうち、29 科目（41%）で確認された。第４位は２項目あり、「論理的思考力」および「社会知識理解」である。すべての共通科目のうち、24 科目（34%）で確認された。

「自然知識理解」、「数量的スキル」といった自然科学分野に関連した学士力項目の頻度が高いことが共通教育の特徴の一つとして挙げられる。

次に、頻度の低い項目を挙げた結果が表２－２である。

表２－２　共通科目における頻度の低い学士力項目

学士力項目	該当科目数（%）
生涯学習力	０（０%）
自己管理力	１（１%）
統合的学習経験と創造的思考力	１（１%）
チームワーク、リーダーシップ	５（７%）
倫理観	５（７%）
多文化・異文化知識理解	５（７%）

頻度の低い項目として挙げられた第１位は「生涯学習力」である。すべての共通科目のうち、確認できる科目は一科目もなかった（０%）。第２位は、２項目あり、「自己管理力」および「統合的学習経験と創造的思考力」である。すべての共通科目のうち、ともに１科目（１%）でしか確認できなかった。第４位は、３項目あり、「チームワーク、リーダーシップ」「倫理観」「多文化・異文化知識理解」である。すべての共通科目のうち、ともに５

科目（７％）で確認されるにとどまった。
　学士力項目の中でも、頻度の低い項目は、70 ある共通科目の中でほとんど取り上げられていないことがわかる。

２．調査結果の分析
　全学共通教育を担当する全教員に配布されている『全学共通科目　教員ハンドブック（2009 年度版)』(大学教育開発センター）では、共通科目の目標として次のような点が挙げられている。

　共通科目の第一の目標は、体系的に確立した学問分野を幅広く学んで、その初歩的な理解を手に入れることです。その分野を専攻しない学生をおもなターゲットとして、各々のディシプリンに固有の対象と方法を理解させ、その学問領域の意義や面白さを伝えることを主眼としています。受講生はそれぞれの関心と専門分野に応じて複数の共通科目を選択することで、伝統と方法論に裏づけられた学問世界の見取り図を（たとえ断片的であっても）描くことになります。この意味で共通科目は、主題科目がめざす「総合性」が包摂しきれない「個別性」を主として担う科目群という位置づけをもっています。

　このように、共通科目の第一の目標は、各学問分野の基礎的理解の形成である。後半部分で指摘されているように、主題科目と対比するならば、どちらかといえば、学問分野の「個別性」を重視した科目群として位置づけられている。
　この目標から考えると、共通科目では、学士力項目の中の「知識・理解」に分類されている「自然知識理解」「社会知識理解」「多文化・異文化知識理解」を取り扱うことになるといえる。
　『全学共通科目　教員ハンドブック（2009 年度版)』では、共通教育の目標として、もう一つ挙げられている。

　第二の目標は、特に自然科学系のいくつかの共通科目の場合に、今後学部での専門教育を受けるのに必要となる基礎的知識を確実に習得させることです。分野によってはリメディアル教育（補習教育）の役割を持っており、本来は高校生までに身につけておくべき知識の定着度から確認する必要がある場合もあります。これらの点に関する各科目の内容や目標設定に関しては、それぞれの科目領域教員会議で情報交換と必要な調整をおこないます。

　共通科目には、各学問分野の基礎的理解の形成だけでなく、リメディアル教育としての役割も挙げられている。とくに自然科学分野ではこの傾向が強い。
　頻度が高い項目として「自然知識理解」が挙げられていた背景には、この「リメディア

ル教育としての共通科目」という位置づけが影響していると考えられる。

３．今後の課題

学士力項目の観点から分析した結果から、今後の共通科目の課題を挙げたい。次の２点である。

第一に、共通科目の目標についての検討である。上記のように共通科目の目標としては、各学問分野の基礎的理解の形成とリメディアル教育の２つが挙げられている。共通科目の枠組みとして、この２つの目標をともに含んだまま共通科目を設定するのか、あるいは、２つの目標ごとに科目群を分けて設定するのかについての検討が必要である。

第二に、共通科目で主に取り扱うべき「知識・理解」に属する項目のバランスの検討である。学士力項目の「知識・理解」では、「多文化・異文化知識理解」「文化知識理解」「社会知識理解」「自然知識理解」という４つの分野に項目が分かれている。70 におよぶ共通科目の中で、これら４つの分野がバランスよく提供されているか、バランスよく履修できるしくみができているかについて検討することである。これは、共通科目として開講すべき科目数、あるいは開講された共通科目の授業規模とも関連する課題である。

（4）教養ゼミナールの内容点検

１．教養ゼミナールにおける学士力項目の頻度

平成 21 年度において、全学共通科目の教養ゼミナール（以下、教養ゼミ）は 58 コマ開講されている（前期 42 コマ、後期 16 コマ）。本調査ではこれら 58 のシラバスの内容を精査し、それぞれの授業で獲得されると考えられる力を、2008 年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において提示されている学士力項目（厳密に言うと、これに、香川大学の理念に即して、「地域理解力」を加えたもの）に即して析出した。具体的には、シラバスの「授業の目的・達成目標」、「授業概要」、「授業および学習の方法」の欄に記されている内容に基づいて、一つの授業につき最大 5 つまで学士力項目を挙げる、という方法をとった。その上で教養ゼミ全体を一つのまとまりと考えて、該当する学士力の上位５項目と下位５項目を整理した。結果は以下のとおりである。

表３－１　上位の学士力項目

	該当授業数
1. ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ｽｷﾙ	51
2. 問題解決力	40
3. 社会知識理解	28
4. 自然知識理解	22
5. 論理的思考力	14
5. ﾁｰﾑﾜｰｸ・ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ	14

表３－２　下位の学士力項目

	該当授業数
16. 統合的経験と創造的思考力	0
15. 生涯学習力	1
14. 多文化・異文化知識理解	2
14. 倫理観	2
12. 市民としての社会的責任	3
11. 情報ﾘﾃﾗｼｰ	4

２．調査結果の分析

まず 2006 年 8 月 3 日の共通教育実施委員会において討議の上承認された文書「教養ゼミナールの位置づけ」の内容に即して、教養ゼミの理念を確認しておきたい[1]。教養ゼミは、ややもするとマスプロ教育に陥り、新入生の学習意欲を低下させてしまう恐れのある講義形式の多人数授業に対して、「学問のなんたるかを少人数教育で会得させ、学問の楽しさを知らせる機会を与える」ことを意図して設置された。もう少し具体的にいうと、教養ゼミは、「大学教育の新鮮味を感受させつつ、教員と学生間の交流を通じて人格形成を促すとともに、発表・討議を通じて論理的思考力、表現力、批判力を養うことを目的としている」。この理念にもとづいて、教養ゼミの教育目標を以下の３点に整理することができる。

[1] 香川大学大学教育開発センター編『教養ゼミナールハンドブック』2007 年、32 頁以下参照。

① 大学生・社会人として必要な知的技法の基盤の育成。たとえば批判的な読書法、分かりやすい発表資料の作成、分かりやすいプレゼンテーション、討論の仕方など。
② 学部混在型の学生と教員による少人数での知的交流。
③ 大学での参加型・能動型学習への転換ないしは導入。

以上の３点に照らして、調査結果を吟味してみたい。上位の学士力項目として、コミュニケーション・スキルと問題解決力が上位２つを占めているのは、教養ゼミの多くが、授業外での調査と、調査結果の口頭発表を課しているためだと考えられる。また「チームワーク・リーダーシップ」が第５位に入っているのは、多くの授業でグループ作業を取り入れているためである。この結果は、先に挙げた教養ゼミの教育目標とほぼ対応するものであり、教養ゼミが全体として、その位置づけに即した内容を提供していることの裏付けになると思われる。ただし、「大学生・社会人として必要な知的技法の基盤」として不可欠と考えられる「情報リテラシー」が下位項目にあがっていることは問題であろう。シラバスに記載がないだけで、事実上この種の教育が行われている可能性もあるが、もしそうでなければ、今後この項目についての強化が求められるべきである。

下位項目としてあがったもののうち、「統合的経験と創造的思考力」とは、2008 年の答申によれば、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する力」である。こういった力の涵養が望まれるのは、例えば卒業研究においてであると考えられるので、教養ゼミでこの項目が上がらないことは、問題とは言えないだろう。その他では、学士力項目を、知識、技能、態度に分けた場合、態度のグループに属する「生涯学習力」、「倫理観」、「市民としての社会的責任」が下位項目としてあがった。これに関しては、〈態度を養う授業〉とはどのようなものか、そしてこれが教養ゼミにおいて求められるべきか、検討が必要である。

３．今後の課題

以上確認したように、調査結果と教養ゼミの理念との間には一定の整合性がある。しかし、授業の水準に関する調査では、課題も見出された。最後にこの点を指摘したい。

授業の水準を、①大学学習法など、大学での学習を円滑にするためのもの、②高等学校との接続を意識した水準（リメディアル）、③通常の大学の基礎的水準、④専門の中核的水準、⑤発展定期内容の科目で大学院との接続水準、という五段階に分けた場合、教養ゼミはすべて、①の水準に位置付けられるべきである。このことは、教養ゼミの理念からも明らかであろう。しかし調査によって、中には専門基礎科目と位置付けられるべき内容をもった授業があることが確認された。これは、単なる授業設計のミスの結果とは言い難く、香川大学の分散キャンパス体制に根をもつ構造的な問題の表れとして理解すべきものである。どういうことであろうか。

平成 21 年度において、58 コマの教養ゼミが開講されているが、そのうち幸町キャンパス

では 33 コマ、医学部（三木町）キャンパスでは 6 コマ、工学部（林町）キャンパスでは 12 コマ、農学部（三木町）キャンパスでは 7 コマが開講されている。医学部、工学部、農学部の各キャンパスで教養ゼミが開講される場合、参加者は当該学部に所属する学生に限定されることが多くなる。この場合、教養ゼミの教育目標である「学部混在型の学生と教員による知的交流」が達成できなくなる。さらに、このような参加者構成を教員が想定して授業をデザインするようになると、教養ゼミの枠で、専門基礎の内容をもつ授業が開講されることになる。分散キャンパスの問題は、教養ゼミの学部非混在型化、さらには専門基礎科目化と連動しているのである。各学部にもそれぞれの事情があるので、分散キャンパスでの開講の問題は即座には解決できるものではないが、授業内容の設定方法と開講場所について改善を試みる[2]、あるいは教養ゼミの理念についての再検討を行うといった対策が必要であろう。

---

[2] この問題は、2007 年においてすでに指摘されている。前掲、45 頁参照。

（５）高学年教養科目の内容点検

１．高学年教養科目における学士力項目の頻度

平成 21 年度高学年向け教養科目は、全学共通科目、学部提供科目合わせて２６開講された、このうち全学共通科目として開講された 8 講義について点検してみよう。高学年教養科目は、次項で述べるようにいくつかのタイプをもっており、これらを一律に評価することはできないが、上記 8 講義の学士力項目の配置は以下の通りである。

表４－１　上位の学士力項目

	該当科目数
1.ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ･ｽｷﾙ	7
2.異文化知識理解	5
3.論理的思考力	2
3.問題解決力	2
3.ﾁｰﾑﾜｰｸ･ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ	2

表４－２　下位の学士力項目

	該当科目数
10.文化知識理解	0
10.自己管理力	0
10.倫理観	0
10.市民の社会責任	0
10.創造的思考力他	0

今年度開講された科目は、高学年向け主題科目（瀬戸内Ｉ）1 科目、キャリア・デザイン実践講座 2 科目、上級英語 5 科目であり、このためコミュニケーション・スキルや多文化・異文化知識理解が上位項目となった。またキャリア･デザイン実践講座のテーマ及び授業方法から問題解決力や論理的思考の頻度も高い。逆に、文化知識理解や自己管理力、市民としての社会的責任などの項目などへの言及はみられず、生涯学習力、情報リテラシーを加えた 7 項目が０であった。

２．調査結果の分析

高学年教養科目は、平成 19 年度より開設された 2 年次以上の学生向け教養科目である。4 年一貫学士教育という観点から、教養教育と専門教育を有機的に連携づけることをその教育目標とし、具体的には以下の４つのタイプの授業群で構成される。

まず第 1 は、より専門性の高い主題科目である。今年度は瀬戸内Ｉが開講された。第 2 は従来の教養教育や専門教育で育成することが困難な能力を養うものであり、キャリア･デザイン実践講座がこのタイプに入る。第 3 は教養の深化を図り、場合によっては専門教育の準備にもなるものである。上級英語がこのタイプに入ろう。最後が専門の研究を進める学生に対し、関連する学問領域の基礎知識を提供するものであり主として学部から提供されているタイプのものである。全学共通科目としては、ラテン語やギリシャ語も開講されたが、本年度は開かれなかった。

今年度も科目群の教育目標に沿った授業群が開講されたが、高学年向け主題科目という特性、またキャリア･デザイン実践講座や上級英語という特性から、上記のような学士力項目配置となったといえよう。同様に水準としては、他の全学共通科目と異なり、通常の大学の基礎的水準というよりは専門の中核的水準に近いものとなっている。

３．今後の課題

高学年教養科目は、比較的意欲の高い学生を念頭に開かれている。したがって、この科目の意義を高めるためには、学生の意欲を高める工夫が必要である。このためには、この科目のガイダンスを積極的に進めるとともに、魅力ある授業科目のラインアップに取り組まねばならない。学士力項目頻度で低度であったものへの配慮とともに、魅力ある数多くの授業提供を進めるべきであろう。

（６）外国語科目の内容点検

既修外国語（英語）

１．調査結果の分析と現行カリキュラム

外国語科目の場合、科目の性質上、学士力項目として「コミュニケーション・スキル」と「異文化知識理解」に限定される。但し、既修外国語（英語）の場合、実利性から常に向上を求められるという点で、教育目標は重点的にコミュニケーション能力の育成にある。

各授業の水準は授業レベルごとに以下のように統一して設定されている。

また、現行カリキュラムでは、学年進行に沿った段階的学習プログラムを整備すると同時に、各授業でどのような練習が行われるかを明確にしている。従って、共通科目としての既修外国語（英語）科目には，文学作品の訳読のような旧来型の授業は一切存在しない.

１年前期（「英語コミュニケーション基礎演習」、必修）：高校レベルからの橋渡しで、到達目標は TOEIC スコア 400 である。学期末には全受講生が TOEIC テストを受験する。

１年後期（「英語コミュニケーション総合演習」、必修）：前期「基礎演習」に接続し、TOEIC スコアを 500 へとアップさせることを狙いとしている。前期 TOEIC テストの成績を利用し、一部の学部では習熟度別クラス編成が行われている。後期末にも再度全受講生が TOEIC テストを受験し，学習の成果を確認する。

２年生前期（技能別応用演習：「英語コミュニケーション LR 演習 I」「英語コミュニケーション SW 演習 I」から選択履修）：「LR 演習」は受信（リスニングとリーディング）、「SW」演習は発信（スピーキングとライティング）の能力を高めるための演習であり、「LR 演習」の場合「語彙」「文法」「聴解」などのテーマでさまざまな授業が提供される。「SW 演習」はプレゼンテーションとライティングを中心に、native speaker の教員による少人数の演習が行われる。受講者は自分に最も適した内容のクラスを自分で決定し、授業を受けることになる。受験は義務ではないが、修了時に TOEIC スコアが 500 を超えることが目標。

２年生後期（前期と同様の技能別応用演習：「英語コミュニケーション LR 演習 II」「英語コミュニケーション SW 演習 II」を開講、修了時の TOEIC スコアは 530 が目標である。

２．課題

既修外国語（英語）の現行カリキュラムがスタートして５年が経過し、２年生全員を対象に行ったアンケート調査での評価も概ね肯定的である。一方で、学習時間数を確保するために課されている１年生の自習課題は、その負担感から評判が悪く、週１回の授業を週２回に戻すべきとの声も聞かれる。１年生では 6 月と 12 月に全員が TOEIC テストを受験するが、半年では殆どスコアが上昇しないことも明らかとなったので、１年生と２年生で１回ずつの受験制度に改めることも検討中である。

習熟度別クラス編成は一学部のみで試行しており、これも大きな不満は出ていない。し

かし、評価の公平性や学部全体としてのモチベーションの観点からの議論がまだ不十分な上に、事務作業を扱うマンパワーも不足しており、全学に広げるには至っていない。

初修外国語科目

１．調査結果の分析と現行カリキュラム

香川大学において初修外国語科目は、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の４科目である。日本語科目は留学生にとっては初修外国語であるが、分野上「その他」に分類する。

学士力項目では、科目の性質上、既修外国語（英語）同様に「コミュニケーション・スキル」と「異文化知識理解」に限定される。ただし、以下に見るように、前者に大きな比重がかかっているわけではなく、各言語において、目標設定として両者のバランスが計られている。日本語科目も同様である。

分野：55 の分野コード分類においては，初修外国語はすべて「71:外国語」分野となっている。日本語科目は「99:その他」の分野に分類されている。

学士力：大別して 14 項目挙げられている「学士力」においては，特に関連する上位２つの項目番号を示すことになっている。どの初修外国語および日本語科目においても，３の「コミュニケーション・スキル」が第一の項目となり，１の「異文化理解力」が第二項目となるのは，上述の教育目標の面から見ても当然であろう。

水準：初修外国語４科目はその水準を「3:通常の大学の基礎的水準」としている。初期の授業内容によっては「2:高等学校との接続を意識した水準」に該当するものもあるが，基本的には大学へ入って初めて習う外国語なので妥当な水準設定である。日本語科目については、本学での講義を聴講し、演習・実習に参加する水準（「3:通常の大学の基礎的水準」）に達していない場合の教育支援としてのレベル（「2:高等学校との接続を意識した水準」）の授業も開講されている。

教育目標：シラバスによれば、どの外国語科目も共通して、「基本的なコミュニケーション能力（聞く・話す・読む・書く）養成」を最初の教育目標としている。その基本的土台の上に「異文化理解」、具体的にはその外国語が話されている国・地域の「文化習慣・地域的特性・日本との相違」などの知識習得を次の目標としている。日本語科目でも言語の背景となる文化を学習するために、日本語能力の向上も考慮して、日本語による「日本事情」の科目も用意されている。

２．今後の課題

初修外国語が，「基本的なコミュニケーション能力養成」を最大の教育目標としてシラバスに掲げることに異論はない。しかし学生の中には，言語そのものへの興味よりもその背後にある「異文化」への関心が高いものも少なくないと思われる。そういった学生の学習意欲をかきたてる授業、すなわち学士力番号の並びが 3－1 でなく 1－3 になるような授業設置も必要ではないだろうか。すなわち分野コードが 71 ではない授業も「初修外国語科目」に含むことが可能になる柔軟なカリキュラム編成がのぞまれる。

（７）健康スポーツ科目のカリキュラム点検内容

１．健康スポーツ科目における点検結果

今回、平成２１年度香川大学全学共通教育健康スポーツ科目で開講された４３科目において、全シラバスを点検したところ、「授業の概要」、「授業の目標・達成目標」もしくは「授業及び学習の方法」の項目に前述した理念・教育目標を念頭においた記述がみられた。そこで学士力項目との整合性の点検を行った。

項目１には「チームワーク・リーダーシップ」を、項目２には「コミュニケーション・スキル」をあてることができる。この二つの項目は近年のトップスポーツ選手にも要求されている能力でもあり、一般社会に出て行く前の学生に「社会の縮図」として体験させる機会を与えていると考られる。

項目３には「問題解決力」、項目４には「自己管理力」をあてた。個人及びチームのパフォーマンスを向上させるには、弱点の自己分析とその解決は必須であり、それをうまく振り返り、管理していく能力が求められるのである。

項目５には生涯学習力をあげた。現代社会において、スポーツ活動や身体運動が心身の健康に役立つことは、生涯考えていくべきことである。

また、どの授業科目もその内容の水準としては、小学・中学・高校と既習の種目も多いが、心身の発育と発達の完成時期にあたる大学生にとって通常の基礎的水準（３）で行われている。

２．健康スポーツ科目の理念と教育目標

現代社会における科学技術のめざましい発達や国際化、情報化時代へ向けての社会の発展に大学教育が目標とする高度な専門的知識や技術とともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を大学において習得すること、今後の社会において有能な人材のひとりとなり得る。しかし、人格・識見がともに優れていても、生物体である「ヒト」がそれらの能力を十分に発揮するには、揺るぎない生命力、つまり心身が「健康」であることが前提となる。

現代社会の健康問題に目を向けると、食習慣の変化がもたらす代謝異常と肥満による生活習慣病の増加や、不透明で千変万化する社会情勢のなかでのストレッサーの増大など、「健康」は心身両面にわたり厳しい状況にさらされている。

このような状況下にあって、健康問題を解決するひとつの方法としてスポーツ活動および実践を挙げることができる。しかし、スポーツの本来的意味は「プレイそのものを楽しむ」ことにある。つまり、スポーツ活動は体力の向上を直接的な目標として行うのではなく、あくまでプレイそのものを楽しむことに第一義的な意味を持つ。スポーツの真なる意味である「プレイの楽しさ」を理解することは不断にわたる継続的スポーツ活動の支持基盤となる。つまりスポーツがもたらす「楽しさ」は心には安らぎを、またその「楽しさ」は継続的スポーツ活動の実践を可能にし、身体の適応性を高めることができる。

健康スポーツ科目は、学生個々の興味や身体的状況に応じた種々のスポーツ種目を通してスポーツが持つ「楽しさ」を理解させ、生涯にわたり自立的に、かつ継続的に正しい方法でスポーツ・身体運動ができる能力を養うことを理念としている。

そのような理念のもと、健康スポーツ科目の教育目標には「技術・技能の習得」による「楽しさ」の享受はもちろんのことであるが、開講されているスポーツ種目の多くが個人技能だけに頼らず、集団のパフォーマンスを追求するチームスポーツであることから、チームにおける協力・リーダーシップ養成、コミュニケーション能力向上等に代表される人間関係力養成にも目標をおいて授業を展開している。

３．今後の課題

現在、実施されている健康スポーツ科目は、数年前より全シラバスで「概要」もしくは「達成目標」のなかで、人間関係力（チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション）についての項目記述に盛り込み、その内容・方法の工夫を担当教員にお願いしてきた経緯がある。今後の課題として、科目担当者間で問題点や成功している実践例・工夫点の情報交換をおこなうなどのFD活動を活発化し、どの授業科目を選択しても同じような効果の得られる授業を構築していくことである。

（8）まとめ

本学で開設されている授業科目は、シラバスから読み取る限り各々の科目群の教育目標にほぼ相応した内容になっている。学士力項目との関連でも、同様の相応関係が見られた。

まず、主題科目では「現代の諸テーマを学際的に考察し、知の総合化を目指す」という目標から想定される、「社会知識理解」「文化知識理解」「自然知識理解」につづいて「コミュニケーション・スキル」や「生涯学習力」が重点的に取り扱われており、主題ごとの特徴も検出できた。学際的考察という側面では、人文、社会、自然、異文化理解の二つ以上の項目に言及している授業が半数ほどあった点からも、趣旨との一致が伺われる。

つぎに、共通科目においても「自然知識理解」「社会知識理解」「文化知識理解」と並んで、「数量的スキル」「問題解決力」「論理的思考力」への言及が多く見られ、「学問領域の意義の伝達を主眼において個別学問の方法論と認識の仕方を教える」という目標と相応しているといえよう。教養ゼミ科目も同様であり、「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」「論理的思考力」が重視されているのはこの科目の教育目標に沿った結果である。

外国語科目や健康・スポーツ科目は、さらに意識的に統一シラバスの形態を採用するなどして、各々「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化知識理解」、「チームワーク・リーダーシップ」と「コミュニケーション・スキル」や「問題解決力」を重点化しており、水準配置にも考慮している。全科目群で、各教育目標との相応性がみられ、大きな逸脱はない。

しかし、各科目群の課題でも指摘されたように問題点も見られる。主題科目では、一部主題テーマと授業内容の不一致が見られるものがあるし、共通科目ではリメディアル授業の位置づけでさらに検討が必要である。教養ゼミ科目においては、分散キャンパスでの授業内容の差異も指摘されているし、外国語教育科目では、学生の関心を高める問題や、能力アップに繋がる授業形態についての見直しも考慮すべきである。

さらに指摘されるべきは、全科目群においてあまり重視されていない学士力項目の存在である。トータルにみれば、多くの学士力項目はバランスよく重視されている。しかし、「市民としての社会的責任」や「倫理観」、「統合的な学習経験と創造的思考力」についての言及は低頻度であった。1,2 年次を主な履修期間とする全学共通科目で総合的な学習経験を保証することは難しいが、高学年教養科目等で創造的思考力を育むプログラムを構成することはできよう。また 21 世紀型の「市民」育成を目標とするならば、「市民としての社会的責任」や「倫理観」を育むプログラムづくりは、早急に取りかかるべき課題である。全科目群の教育目標とするか、特定の科目群の目標とするか、あるいは主題の一つのテーマとするか。色々な選択肢はあるが、いずれにしろカリキュラム化を急ぐ必要があろう。

もう一つ指摘できるのは、「地域理解」力に関してである。主題科目の一主題として「国際・地域」があり、このため主題科目群におけるこの項目の言及頻度は中程度になっている。しかし、その他の科目群での頻度はどれも低いものである。「地域に根ざした」大学を

標榜する本学の全学共通科目として、この状態は看過できまい。香川大学版の「21 世紀型市民」育成という観点に立てば、「市民としての社会的責任」項目同様の対応を考えねばなるまい。

Ⅳ．今後に向けて

本プロジェクトは 3 年計画で立ち上げたものである。したがって次年度は最終年度であり、「21 世紀型市民」育成のための全学共通教育カリキュラムを策定することが目標となる。

この 2 年間の調査、点検等から、新しいカリキュラムづくりにおいて念頭に入れておかねばならない諸点が検出できた。学士力項目を指標としたカリキュラム点検では、かなりの項目をバランスよくカバーする授業が展開されていることが明らかになっている。主題科目、共通科目、教養ゼミ科目をはじめ各科目群の教育目標は、シラバスを見る限り相当程度達成されている。これらの資産を生かした、カリキュラムづくりが探求されねばならない。

その際、まず不足している学士力を補う授業導入という点からは、次の諸方策が検討されねばならない。それらは、①「統合的経験と創造的思考力」を養う科目あるいは授業形態の導入、②「市民の社会的責任」及び「倫理観」を育成するプログラムの導入及び、③香川大学版という観点からの「地域知識理解」を育む授業群の追加である。香川大学版の「21 世紀型市民」育成をカリキュラム・ポリシーとするならば、こうした市民に必要な資質である、豊かな学問的知識と地域理解を合わせもち、汎用的なスキルとともに主体的市民としての態度を形成した人間の育成という理念を、これらの新しいプログラムを導入したカリキュラムで明示化しなければならない。

これらと合わせて考慮しなければならないのは、新カリキュラムを学生の学習成果に結びつける手立てである。今年度の点検作業は、あくまでもシラバスを通してのものであって、学生の学習成果自体ではない。シラバス、授業と学習成果を結びつける作業が、今後展開されねばなるまい。その際、学習過程をガイドするための方策、たとえばシラバス記載の統一化、履修のガイドとなるカリキュラム・マップの作成などは、新カリキュラムの実施に合わせて行われるべきものである。

さらに検討されるべきは、学習を実効ならしめる制度改革である。高学年教養科目は四年一貫教育という観点からも、一層充実すべきものである。しかし、現行の 1･2 年次のみの履修という期間の限定がある限り、その実現は困難である。各学部の科目と連携をとった多くの授業科目をグループ化し、副専攻として提示するという方法も検討されるべきであろう。また、教育目標と各授業の関連付けを促進する手立ても検討されねばならない。この点では、愛媛大学が採用している教育コーディネータ制も有力な方法である。さらには、語学力を中心とするコミュニケーション・スキルの向上には、四年一貫プログラムが検討されるべきである。この意味において、各学部教育にも対応できる外国語センター構想も有力な選択肢であろう。

いうまでもなく制度改革は、大学教育開発センターだけで実現できるものではない。現在本学で取り組んでいる大学全体の教育改革、教養学部設置と関連づけて、これらの課題にも向かっていかねばならない。

付録１：カリキュラム点検表

カリキュラム点検表で示される数記号は、各々次のコード化にも続いている。

（1）科目コード：現行の全学共通教育科目コード
（2）分野コード：新潟大学で採用されている科研コードを準用した下記のコード
（3）学士力番号コード：前述(2ページ)の中教審答申の例示を準用、加工したもの
（4）水準コード：新潟大学で採用されている下記の水準コード

分野コード

	分　野		分　野		分　野
10	情報	41	数学	65	農業工学
13	芸術	43	物理学	66	畜産学
14	健康スポーツ	44	地学	70	英語
15	生活科学	46	化学	71	外国語
16	科学社会学	47	応用科学	74	キャリア教育
28	哲学	49	工学基礎	75	個性化科目
29	文学	50	機械工学	76	大学学習法
30	言語学	51	電気電子工学	77	課題研究
31	史学	52	土木工学	80	基礎医学
32	人文地理学	53	建築学	81	臨床医学
33	文化人類学	54	材料工学	82	社会医学
34	法律学	55	プロセス工学	85	看護
35	政治学	56	人間医工学	86	福祉
36	経済学	57	生物学	87	境界医学
37	経営学	60	農学	99	その他
38	社会学	61	農芸化学		
39	心理学	62	林学		
40	教育学	64	農業経済		

水準コード

1	大学学習法など、大学での学習を円滑にするためのもの
2	高等学校との接続を意識した水準（リメディアル）
3	通常の大学の基礎的水準
4	専門の中核的水準
5	発展的内容の科目で大学院との接続水準

カリキュラム点検表

主題科目

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野1	分野2	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	
000101	15	40	03	09	16			3
000102	39	40	05	08	09			3
000103	39	40	05	08	09			3
000104	39		05	08	02			3
000105	57	80	04	07	13			3
000106	80		04	13				3
000107	57	65	04	09				3
000108	60	66	03	04				3
000109	61	64	03	04				3
000201	40	81	03	04	05			3
000202	29	13	02	05				3
000203	13		02	03	05			3
000204	14	40	03	11				3
000205	28	38	02	03	11			3
000206	28	29	01	02	11			3
000207	57	80	04					3
000208	39	80	04	11	13			3
000301	39	40	03	08	13			3
000302	13	38	02	03	08			3
000303	10	4	07	08				3
000304	10	37	03	08	16			3
000305	57	80	04	08				3
000306	10	16	01	03	04			3
000307	16	49	03	11	12			3
000308	10	49	07	08				3
000401	40		03	05	12			3
000402	31	40	02	03				3
000403	31		01	02	03			3
000404	31	40	01	02	03			3
000405	31	34	02	03	10			3
000406	31	36	01	03				3
000407	37		03	06	08			3
000408	40	38	02	03	16			3
000501	40		01	02	03	05		3
000502	36		01	02	03			3

カリキュラム点検表

主題科目

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野1	分野2	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	
000503	36	37	01	03				3
000504	35	37	03	10	16			3
000505	16	50	04	05	14			3
000506	13	31	02	03	16			3
000507	32	35	01	03	16			3
000508	30	40	01	02	03			3
000601	15	38	02	03				3
000602	43	44	04	06				3
000603	36		03	04	12			3
000604	85		02	05	11			3
000605	44	52	03	04	16			3
000606	60	57	02	04				3
000607	46	61	03	04				3
000608	44	52	04	10	14			3
000609	44	52	10	14	16			3
000701	31	32	02	03	16			3
000702	74		05	11	13			3
000703	74		05	11	13			3
000704	74		05	11	13			3
000705	74		05	11	12			3
000706	74		05	11	12			3
000707	74		05	12	13			3
000708	74		11	12	14			3
000709	74		11	12	14			3
000710	81		09	10	13			3

カリキュラム点検表

共通科目

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野1	分野2	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	
010101	28		02	03				3
010102	28		07	02				3
010201	28		07	02				3
010301	28		09	02	01			3
010401	13		02	16				3
010402	13		02	05				3
010501	39		02					3
010502	39		02	05				3
010503	39		02	05				3
010504	39		02	05	03			3
010505	39		02	05				3
010601	38		03	05	10			3
010602	38		03	16				3
010603	38		03	05				3
010604	38		03	04	07			3
010701	40		03	02	05	07		3
010801	31		02	03	05			3
010802	31		02	16	05	03		3
010803	31		02	01	12	03	07	3
010901	29		02	01	13			3
020101	30		02	05				3
020201	34		03	10	08	02	05	3
020202	34		03	10	08			3
020203	34		03	09	01			3
020301	35		03	09				3
020401	36		03	06	08			3
020501	37		03	09	08			3
020601	37		03	06	10			3
030101	41		06	04	03			3
030102	41		06	04	03	07	12	3
030103	41		06	04	12	07		3
030104	41		06	04	12	07		3
030105	41		06	04	07	12		3
030106	41		06	04	07	12		3(2)
030107	41		06	04	07	12		3

カリキュラム点検表

共通科目

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野1	分野2	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	
030108	41		06	04	07	12		3
030109	41		06	04	07	12		3
030110	41		06	04	07	12		3
030111	41		06	04	07	12		3(2)
030112	41		06	04	07	12		3
030113	41		06	04	07			3
030201	44		04	10	07	08		3
030202	44		04	12				3
030301	43		04	06	02			3
030302	43		04	06	12	07		3
030303	43		04	06	12			3
030304	43		04	06	12			3
030305	43		04	06	12			3
030306	43		04	06	12	05	10	3
030307	43		04	02	12	10	05	3
030308	43							3
030309	43		04	06	12	14		3
030310	43		04	06	12	14		3
030401	46		04	06	07			3
030402	46		04	06	12	07		3(2)
030403	46		04	06	12	07		3
030404	46		04	06	05			3
030405	46		04	06				3(2)
030406	46		04	06	14	08		3
030501	57		04	16	03			3
030502	57		04	06	03			3(2)
030503	57		04	06	12	15		3(2)
030504	57		04	06				3
030505	57		04	05	06	12		3
030601	19		03	16	14	05	12	3
030701	41		04	06	12	07		3
030801	10		04	06	07	12	14	3
030802	10		08	12	05	06		3
030901	80		04	16	03	05		3
031101	85		09	03	05	10	04	3

カリキュラム点検表

教養ゼミナール

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野1	分野2	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	
080001	41		06	12	14	05		1
080002	13		02	05	16			1
080003	33		13	16	02	03		1
080004	15		12	05	03			1
080005	15		12	05	03			1
080006	40		03	13	05	02	07	1
080007	40		03	12	05	02		1
080008	40		13	05	03	02	07	1
080009	46		04	12	05	10		1
080010	49	43	12	05	14	04		1
080011	57		04	12	05	07		1
080012	10		08	12	04	05		1
080013	40		03	13	05	02	14	1
080014	34		12	03	05			1
080015	34		12	05	03	07		1
080016	34		03	12	05	07		1
080017	34		07	05	03	12		1
080018	76		05	03	12	07		1
080019	76		07	03	14	05		1
080020	34		03	12	05	08		1
080021	34		12	05	03	16		1
080022	10		08	12	05			1
080023	36		03	05				1
080024	74		03	07	05	14		1
080025	37		03	07	05			1
080026	74		12	11	05	03	13	1
080027	99		16	14	05	07		1
080028	99		12	05	14	16		1
080029	32	71	02	01	12			1
080030	99		03	16	05	02	14	1
080031	76		07	12	14			1
080032	41		04	06	12	07		1
080033	85		03	05	12			1
080034	80		12	05	04	14		1
080035	57		12	07	05			1

カリキュラム点検表

教養ゼミナール

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野１	分野２	項目１	項目２	項目３	項目４	項目５	
080036	76		05	12	02	08		1
080037	80		12	05	04	15		1
080038	46		04	05	14			1
080039	99		14	12	05			1
080040	16		05	03	12			1
080041	99		03	12	05			1
080042	16		09	10	05			1
080043	16		04	14	05			1
080044	16		03	12	05			1
080045	15		04	12	05			1
080046	16		04	09	10			1
080047	50		04	12	05			1
080048	49	57	04	12	05			1
080049	52		04	16	14	05		1
080050	16		03	04	12			1
080051	44		04	12	05	16		1
080052	57	60	04	03	05			1
080053	57		04	12	05			1
080054	15		04	12	05			1
080055	64		03	12	05			1
080056	57		16	04	03			1
080057	57		04	12	05			1
080058	60		04	01	05	12		1

カリキュラム点検表

高学年向け教養科目

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野１	分野２	項目１	項目２	項目３	項目４	項目５	
050101	57	52	16	4	3			4
050103	74		9	8	5	11		4
050104	74		9	8	5	11		4
050402	70		5	1				4
050403	70		5	1				4
050404	70		5	1				4
050405	70		5	1				4
050406	70		5	1				4

カリキュラム点検表

既修外国語:英語

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野1	分野2	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	
041101～041120	70		3	1				2
041121～041133 041139～041140	70		3	1				2
041136～041138	70		3	1				2
041201～041220	70		3	1				3
041221～041233 041239～041240	70		3	1				3
041236～041238	70		3	1				3
041301	70		3	1				3
041302	70		3	1				3
041303	70		3	1				3
041304	70		3	1				3
041305	70		3	1				3
041306	70		3	1				3
041307	70		3	1				3
041308	70		3	1				3
041309	70		3	1				3
041310	70		3	1				3
041311	70		3	1				3
041312	70		3	1				3
041313	70		3	1				3
041314	70		3	1				3
041315	70		3	1				3
041316	70		3	1				3
041317	70		3	1				3
041318	70		3	1				3
041319	70		3	1				3
041320	70		3	1				3
041321	70		3	1				3
041322	70		3	1				3
041323	70		3	1				3
041324	70		3	1				3
041325	70		3	1				3
041501	70		3	1				3
041502	70		3	1				3
041503	70		3	1				3

カリキュラム点検表

既修外国語：英語

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野１	分野２	項目１	項目２	項目３	項目４	項目５	
041504	70		3	1				3
041505	70		3	1				3
041506	70		3	1				3
041507	70		3	1				3
041508	70		3	1				3
041509	70		3	1				3
041510	70		3	1				3
041511	70		3	1				3
041512	70		3	1				3
041513	70		3	1				3
041514	70		3	1				3
041515	70		3	1				3
041516	70		3	1				3
041517	70		3	1				3
041518	70		3	1				3
041519	70		3	1				3
041520	70		3	1				3
041521	70		3	1				3
041522	70		3	1				3
041523	70		3	1				3
041524	70		3	1				3
041525	70		3	1				3
041401	70		3	1				3
041402	70		3	1				3
041403	70		3	1				3
041404	70		3	1				3
041405	70		3	1				3
041406	70		3	1				3
041407	70		3	1				3
041408	70		3	1				3
041409	70		3	1				3
041601	70		3	1				3
041602	70		3	1				3
041603	70		3	1				3
041604	70		3	1				3

カリキュラム点検表

既修外国語：英語

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野１	分野２	項目１	項目２	項目３	項目４	項目５	
041605	70		3	1				3
041606	70		3	1				3
041607	70		3	1				3
041608	70		3	1				3
041609	70		3	1				3
041701	70		3	1				3
041702	70		3	1				3
041703	70		3	1				3
041801	70		3	1				3
041802	70		3	1				3
041811	70		3	1				3
041812	70		3	1				3

カリキュラム点検表

初修外国語:独、仏、中、韓語、日本語

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野1	分野2	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	
043101～043111	71		3	1				3
043201～043211	71		3	1				3
043311	71		3	1				3
043312	71		3	1				3
043411	71		3	1				3
043412	71		3	1				3
043603	71		3	1				3
043604	71		3	1				3
044101～044104	71		3	1				3
044201～044204	71		3	1				3
044301	71		3	1				3
044302	71		3	1				3
044401	71		3	1				3
044402	71		3	1				3
044701	71		3	1				3
044702	71		3	1				3
045101～045108	71		3	1				3
045201～045206	71		3	1				3
045502	71		3	1				3
045301	71		3	1				3
045303	71		3	1				3
045304	71		3	1				3
045401	71		3	1				3
045402	71		3	1				3
045601	71		3	1				3
045602	71		3	1				3
046101～046103	71		3	1				3
046201～046203	71		3	1				3
046301	71		3	1				3
041324	71		3	1				3
046302	71		3	1				3
046401	71		3	1				3
046402	71		3	1				3
071101	99		3	1				1
071102	99		3	1				1

カリキュラム点検表

初修外国語:独、仏、中、韓語、日本語

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野１	分野２	項目１	項目２	項目３	項目４	項目５	
071103	99		3	1				1
041201	99		3	1				2
041202	99		3	1				2
041203	99		3	1				2
071301	99		3	1				3
071302	99		3	1				3
071401	99		3	1				3
071402	99		3	1				3
071501	99		3	1				3
071502	99		3	1				3
071601	99		3	1				3
071602	99		3	1				3
072102	99		3	1				3
072201	99		3	1				3
072202	99		3	1				3

カリキュラム点検表

健康スポーツ・実技

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野1	分野2	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	
061101	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061102	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061103	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061104	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061105	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061106	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061107	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061108	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061109	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061110	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061111	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061112	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061113	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061114	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061115	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061116	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061117	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061201	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061202	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061203	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061204	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061205	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061206	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061207	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061208	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061209	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061210	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061211	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061212	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061213	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061214	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061215	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061216	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061217	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061301	1401	1402	12	3	10	11	9	3

カリキュラム点検表

健康スポーツ・実技

科目コード	分野ｺｰﾄﾞ		学士力番号					水準ｺｰﾄﾞ
	分野１	分野２	項目１	項目２	項目３	項目４	項目５	
061302	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061303	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061304	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061305	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061306	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061307	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061308	1401	1402	12	3	10	11	9	3
061309	1401	1402	12	3	10	11	9	3